

2023年度

自動車・オートバイ委員会活動報告書

2024年3月

 **公益社団法人 日本防犯設備協会**
自動車・オートバイ委員会

はじめに

公益社団法人 日本防犯設備協会「自動車・オートバイ委員会」は1988(S63)年度の「自動車盜難防止システム調査委員会」、1989(H元)年度の「新自動車盜難防止システム調査委員会」、1994(H6)年度の「自動車・オートバイ盜難防止技術に関する調査研究委員会」の各活動を前身とし、翌1995(H7)年11月に常設委員会となり、車両盜難防止のため長年にわたり盜難手口の調査、研究を通じて、対策案の検討と提案を実施してまいりました。

また、2001(H13)年に「自動車盜難等防止に関する官民合同プロジェクトチーム」（以下「官民合同PT」）が発足し、翌2002(H14)年「自動車盜難等防止行動計画」が策定されて以来、当委員会も官民合同PTに参画し、自動車盜難等防止行動計画の見直し及び新たなる提案を実施しております。

自動車盜は、2003(H15)年の64,223件をピークに減少に転じ、前年比で1,268件(5.3%)増加した2011(H23)年及び、210件(1.0%)微増した2013(H25)年を除き減少傾向にあり、コロナ禍前である2018(H30)年は8,628件で前年比1,585件(15.5%)減となり、確実に自動車盜難に対する施策効果が表れています。

また、オートバイ盜も2000(H12)年の253,433件をピークに減少に転じ、前年比で1,954件(2.4%)増加した2009(H21)年を除き減少傾向にあり、コロナ禍前である2018(H30)年は、15,292件で前年比4,892件(24.2%)と減少しました。2019～2021(R元～3)年にかけては自動車、オートバイ盜が減少傾向となっておりますが、コロナ禍の影響による外出抑制などの影響も含まれることが想定される為、2023年以降の状況を注意深く推移を見守っていく所存です。

本年度の活動の成果として、以下の重点項目を基にまとめました。

・中古車及び部品における解体/販売/輸出に関する調査

日本中古車輸出業協同組合様訪問による海外の中古自動車部品等の需要についてヒヤリング。

・自動車盜の現状と防止策の情報交換

千葉県警察本部様訪問によるヒヤリング。

尚、一般社団法人 日本損害保険協会様からは、盜難に関する各種データの提供、また、愛知県警察本部様からは、盜難の現状及び防止策に関する貴重な情報を頂きました。ここにお世話になりました関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

また、精力的な調査・研究と本報告書のまとめに参画して頂いた委員並びに当協会事務局のご協力に対して深く感謝申し上げます。

2024(R6)年3月

公益社団法人 日本防犯設備協会
自動車・オートバイ委員会
委員長 大坪 建一
副委員長 佐野 博之

目 次

はじめに	… 2
目次	… 3
自動車・オートバイ委員会名簿	… 4
1. 自動車・オートバイの盗難状況推移	… 5～7
2. 近年の車両盗難の実情	… 8
3. 本年度活動計画	… 9
4. 日本中古車輸出業協同組合様 訪問ヒヤリング	… 10
5. 千葉県警察本部様 訪問ヒヤリング	… 11
6. 通信機能駐車中盗難監視ドライブレコーダ調査	… 12
7. その他活動（官民合同会議）	… 13
おわりに	… 14
(参考資料)	
日本損害保険協会「第25回 自動車盗難事故実態調査結果」	… 15

自動車・オートバイ委員会 委員名簿（敬称略）

構成	氏名	会社名	所属
委員長	大坪 建一	ミネベアアクセスソリューションズ 株式会社	開発第1部 設計B L
副委員長	佐野 博之	朝日電装株式会社	技術部
委員	山本 哲慎	株式会社ユーシン	技術開発部門 技術開発部 技術開発二課
委員	長嶋 治	加藤電機株式会社	技術部
委員	倉田 剛文	株式会社アルファ	技術本部 設計部（兼）総括課
委員	河地 友紀	株式会社東海理化	セキュリティ事業部セキュリティ技術部 第1設計室2グループ
委員	瀬之口 健二	株式会社トランセンド	
特別委員	安部 英毅	いすゞ自動車株式会社	電装・制御開発部 制御設計第1グループ
特別委員	小谷野 輝之	一般社団法人 日本損害保険協会	損害サービス企画部 自動車グループ
特別委員	植田 真悟	本田技研工業株式会社	二輪・パワープロダクツ事業本部 二輪・パワープロダクツ開發生産統括部 完成車開発部 完成車研究課
事務局	佐藤 哲郎	公益社団法人 日本防犯設備協会	自動車・オートバイ委員会事務局

1 自動車・オートバイの盗難状況推移（警察庁データによる）

過去10年間の自動車及びオートバイ盗難認知件数の推移は、次項の表1及び表2に記載されている通り右肩下がりで減少傾向であったが、2022(R4)は僅かに増加した。

自動車盗は、2003(H15)年の64,223件をピークに2010(H22)年の23,970件まで毎年減少した。2011(H23)年と2013(H25)年は僅かながら増加に転じたが、2014(H26)年から再び減少傾向に転じ、2021(R3)年は5,182件であった。2022(R4)年は5,734件と増加した。

認知件数がピーク時の11分の1以下で推移している主な要因は、以下の継続的な対応により効果が上がっていると考えられる。

<盗難防止対策>

- ① ほとんどの車種にイモビライザーが装着された。

(生産台数の装着比率：2004(H16)年22.9% ⇒ 2020(R2)年96.2%)

出典：(一社)日本自動車工業会より

<組織犯罪対策>

- ② 自動車の解体施設「ヤード」の規制条例が、千葉県(2015(H27)年)茨城県(2017(H29)年)愛知県(2019(R元)年)埼玉県(2020(R2)年)三重県(2021(R3)年)で施行され、届け出や取引の記録、書類の保存が義務化され、更には、警察職員の立入り権限強化などで、中古自動車・部品の不正輸出に対する施策が強化された。
- ③ 2005(H17)年7月に、道路運送車両法および関税法基本通達が改正され、中古自動車の不正輸出対策が強化された。
- ④ 港の大型X線検査装置の配備が広がった。

(2000(H12)年以降、13港16箇所となり、検査時間は2時間から10分となった。)

2005(H17)年には長尺貨物等の検査のため、車載式後方散乱線検査装置も導入。)

出典：財務省関税局より

<広報啓発活動>

- ⑤ 当協会も参画している「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム」では、過去に自動車盗の実態調査やYouTubeで盗難防止対策を紹介する動画配信、キャンペーンポスター掲出、啓発チラシの配布などを通じて自動車オーナーへの防犯意識向上活動を実施してきた。

今後は、駐車監視機能を搭載したドライブレコーダーの市場拡大が、盗難認知件数の更なる減少につながると期待している。

また、オートバイ盗は、2000(H12)年の253,433件をピークに2005(H17)年まで毎年前年比20%前後の大規模な減少率で推移した。2006(H18)年から減少率は鈍化傾向となり、2009(H21)年は僅かながら増加に転じたが、その後再び減少傾向が続き2021(R3)年は7,569件となった。2022(R4)年は7,913件と増加した。

認知件数がピーク時の32分の1以下で推移している主な要因は、シャッターキーやフリーリング(空振り機構)、イモビライザー等の搭載など、ハード面での対策がさらに普及してきたこと、及び自動車と同様に水際でのチェック体制の強化などで効果が上がっていると考えられる。

表1.自動車盜難の過去10年間における認知件数の推移

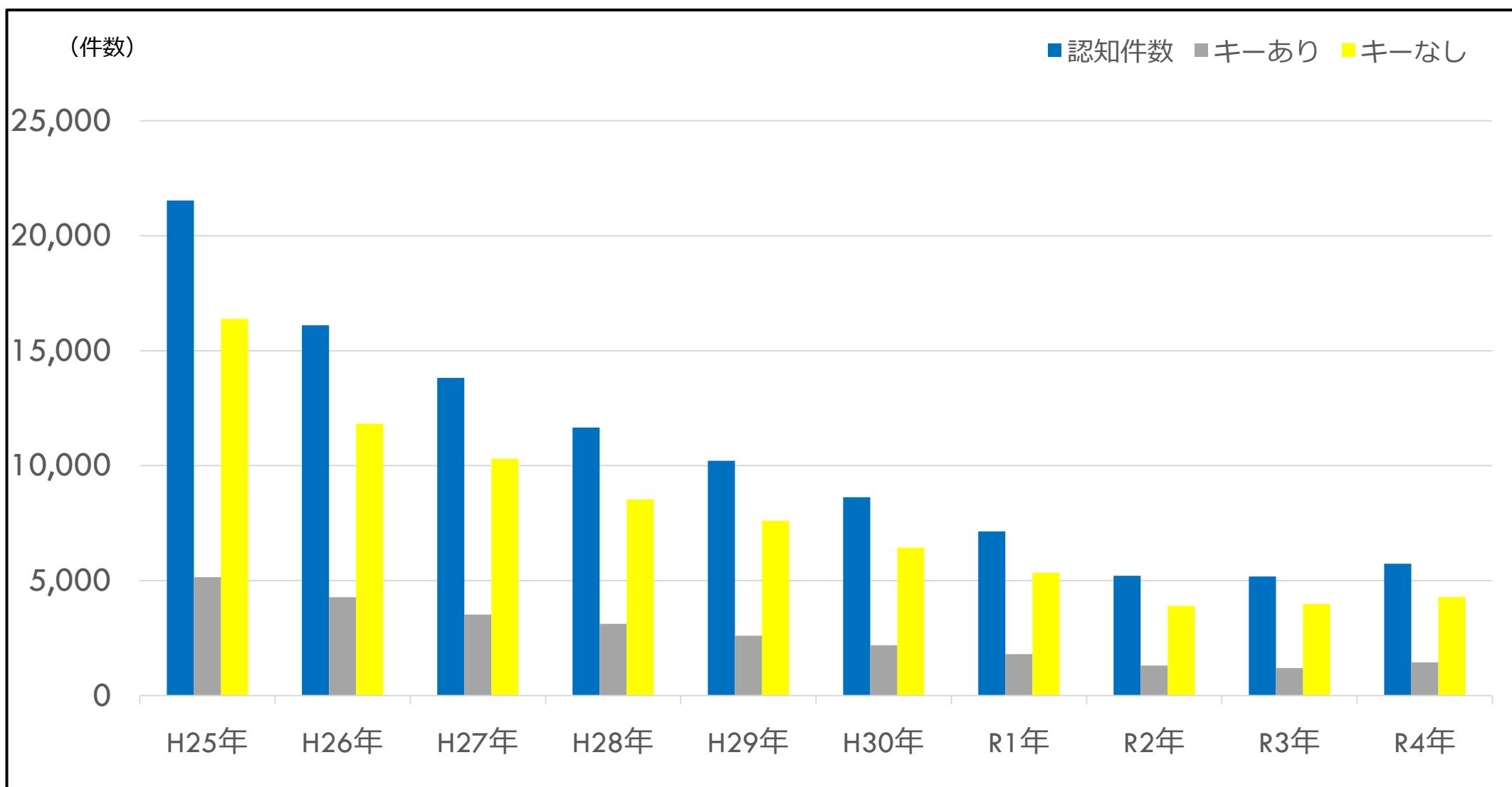
【自動車の盗難認知件数推移表】

被害率 (%) = 認知件数/保有台数

年	認知件数	自動車盜						被害率 (%)	検挙率 (%)
		キーあり		キーなし		保有台数			
		(件)	(%)	(件)	(%)				
平成25年('13)	21,529	5,149	23.9	16,380	76.1	76,776,278	0.03	36.5	
平成26年('14)	16,104	4,279	26.6	11,825	73.4	77,348,329	0.02	41.5	
平成27年('15)	13,821	3,523	25.5	10,298	74.5	77,566,681	0.02	48.9	
平成28年('16)	11,655	3,125	26.8	8,530	73.2	77,916,289	0.01	49	
平成29年('17)	10,213	2,605	25.5	7,608	74.5	78,247,858	0.01	52.5	
平成30年('18)	8,628	2,192	25.4	6,436	74.6	78,464,094	0.01	49.2	
令和元年 ('19)	7,143	1,801	25.2	5,342	74.8	78,597,253	0.01	53.8	
令和2年('20)	5,210	1,307	25.1	3,903	74.9	78,647,041	0.01	57.7	
令和3年('21)	5,182	1,196	23.1	3,986	76.9	78,642,622	0.01	49.3	
令和4年('22)	5,734	1,443	25.2	4,291	74.8	78,717,935	0.01	45.6	

(警察庁ホームページ 統計/ (一社) 日本自動車工業会より)

【自動車の盗難認知件数推移グラフ】



(警察庁ホームページ 統計より)

表2.オートバイ盗難の過去10年間における認知件数の推移

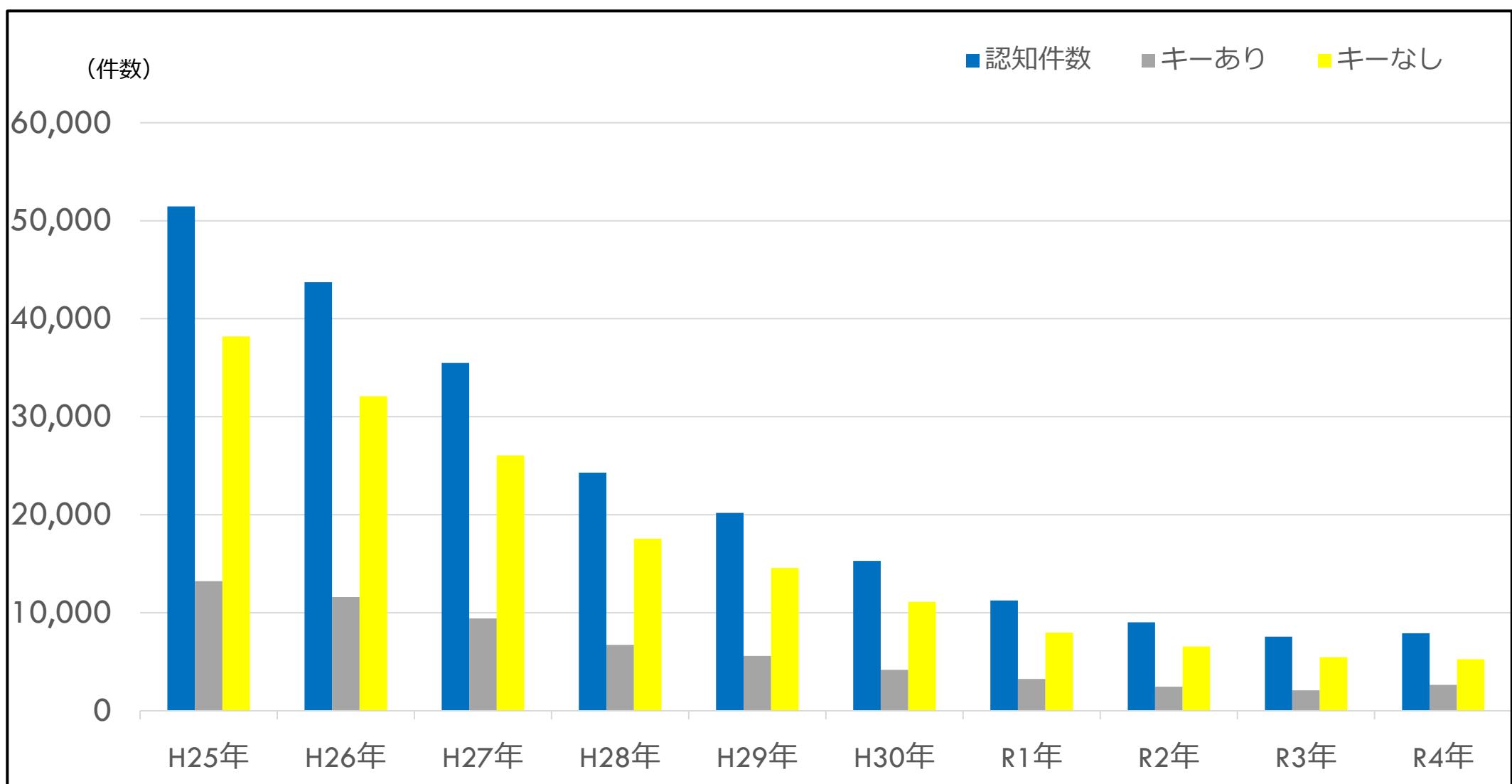
【オートバイの盗難認知件数推移表】

被害率 (%) = 認知件数/保有台数

年	認知件数	オートバイ 盗						検挙率 (%)	
		キーあり		キーなし		保有台数	被害率 (%)		
		(件)	(%)	(件)	(%)				
平成25年('13)	51,442	13,234	25.7	38,208	74.3	11,823,429	0.4	10.9	
平成26年('14)	43,720	11,613	26.6	32,107	73.4	11,688,632	0.4	11.8	
平成27年('15)	35,486	9,418	26.5	26,068	73.5	11,482,344	0.3	11.3	
平成28年('16)	24,304	6,737	27.7	17,567	72.3	11,215,300	0.2	15.2	
平成29年('17)	20,184	5,604	27.8	14,580	72.2	10,955,960	0.2	14.9	
平成30年('18)	15,292	4,175	27.3	11,117	72.7	10,730,337	0.1	17.3	
令和元年 ('19)	11,255	3,261	29	7,994	71	10,539,849	0.1	21.5	
令和2年 ('20)	9,018	2,455	27.2	6,563	72.8	10,348,397	0.1	16.5	
令和3年 ('21)	7,569	2,085	27.5	5,484	72.5	10,287,454	0.1	17	
令和4年 ('22)	7,913	2,635	33.3	5,278	66.7	10,310,955	0.1	18.4	

(警察庁ホームページ 統計/ (一社) 日本自動車工業会より)

【オートバイの盗難認知件数推移グラフ】



(警察庁ホームページ 統計より)

2 近年の車両盗難の実情

近年の刑法犯認知件数減少傾向は変わらず、同様に自動車盗とオートバイ盗も認知件数は減少してきている。これらの減少要因は社会的風潮もあり様々であろうが、官民での防犯活動や個々の防犯意識、対策などが功をなしていると考えられる。

犯罪を未然に防ぐというのは大変重要であり、「照明」「防犯カメラ」「ゲート」などを設置したり「死角を減らす」などのハードウエア面と、「防犯啓発」「地域の防犯活動」「犯罪手口の公開」「関連条例の制定」などのソフトウェア面の両方を適宜利用することが必要である。

車両についてはイモビライザをはじめ高度な盗難防止対策などが施されているものがあり、ほとんどの車両にこれらが搭載されるようになってきている。そのために素人が簡単に盗むようなことはできないはずなのだが、これら機能をユーザが適正に使用しなければ容易に盗難されてしまう可能性もある。ユーザの簡単なミスは是非避けなければならない。（施錠、窓閉め、盗難防止有効化など）

その一方で自動車盗、オートバイ盗を専門的にしている者がいて、盗難防止対策を解除する方法を知っており特殊な機器などをを利用して犯行をしている。その多くの場合においては単独犯ではなく組織犯によるものだと言われている。最近では盗む様子を録画した防犯カメラ映像がテレビなどの報道により目にする機会があるが、わずかな時間で車両を盗っていかれてしまうのがわかる。犯行の際に使用される特殊な機器については過去には「イモビカッター」「リレーアタック」など利用されていたが現在では「CANインベーダー/コードグラバー」が主流のようで、「CANインベーダー/コードグラバー」はインターネットを通じて海外サイトから購入可能である。

先ほどの組織犯についてだが「下見」「窃盗」「解体」「密売」などの役目が分担化されているという。多くは「車両本体」「部品」として海外に不法輸出されていると言われている。そのためだろうか犯行に遭う車種に特定の偏りが見られ、これら車種はおそらく高額で取引をされるからなのである。

この特定車種に該当するオーナーには特に注意をしてもらいたく、車両純正の防犯対策のみならず複数の対策を施すことが有効であると考え対応していただきたい。とは言え、盗難件数の多い車種以外においても盗難は発生しているので基本的な対策はいずれの車種においても必要であろう。車上荒らし、部品盗（最近はナンバープレートを別犯罪に利用）についても同様である。

3 本年度活動計画

(1) 盗難に関する現状調査

- 各都道府県警を訪問し、情報の収集及び盗難手口の共有化を図る。
 - 地域性／特異性のある盗難手口の調査。
 - 地域の条例及び制度(報奨金制度等)の調査。

(2) 防盗に関する調査

- 官民合同PT及び自動車盗難等防止対策協議会への参画。
- ドライブレコーダーの駐車監視システムの継続調査。
- コネクテッドカーのセキュリティーサービスの継続調査。

(3) 中古車及び部品における解体／販売／輸出に関する調査

- 組織犯罪に関わる情報収集を随時行う。

(4) 自動車・オートバイ セキュリティガイド

- 市場動向変化の把握と、改訂に向けた準備。

(5) 活動報告書まとめ

2023 年度 委員会・分科会事業活動計画

2023年 1月 18日

活動スローガン： 視野を広げた調査活動と継続的な広報活動

委員会名 分科会名	自動車・オートバイ委員会
委員長名 主査名	大坪 建一

活動内容 (具体的に箇条書きで記入)	達成目標 及び時期 (具体的に記入)	備考											
<p>1. 盗難に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none">各都道府県警を訪問し、情報の収集及び盗難手口の共有化を図る<ul style="list-style-type: none">地域性／特異性のある盗難手口の調査地域の条例及び制度(報奨金制度等)の調査 <p>2. 防盗に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none">官民合同PT 及び自動車盗難等防止対策協議会への参画最新手口に關し、自工会との情報共有ドライブレコーダーの駐車監視システムの継続調査コネクテッドカーのセキュリティーサービスの継続調査 <p>3. 中古車及び部品における解体／販売／輸出に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none">組織犯罪に関わる情報収集を随時行う <p>4. 自動車オートバイ セキュリティガイドの改訂</p> <ul style="list-style-type: none">市場動向変化の把握と、改訂に向けた準備 <p>5. 活動報告まとめ</p>	<p>1. 盗難に関する調査 (通期)</p> <p>盗難認知件数が多い、増加した都道府県警 若しくは 盗難認知件数が大幅に減少した都道府県警を訪問し、実態をまとめる</p> <p>2. 防盗に関する調査 (通期)</p> <p>情報収集は随時行い、その実態をまとめる 通信機能付きドライブレコーダーの駐車監視システムの進化 及び、これから拡充されてくる可能性の高いコネクテッドカーの セキュリティーサービスの進化、について普及の動向に注目する</p> <p>3. 中古車及び部品の解体／販売／輸出に関する調査 (随時)</p> <p>情報収集を随時行い、訪問等の計画を立てる</p> <p>4. 自動車オートバイ セキュリティガイドの改訂</p> <p>随時、情報収集を行い、改善ポイントを把握する</p> <p>5. 活動報告まとめ (2024年6月)</p>												
日 程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備 考
委員会開催予定 (開催予定月 : ○)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	状況を見て隔月開催を検討

4 日本中古車輸出業協同組合様訪問ヒヤリング

本委員会では、これまで主に各県警に訪問して盗難の手口や対策の状況についてヒアリングをしてきている。今回はヒアリング活動として日本中古車輸出業協同組合様に訪問することにした。

背景としては、盗難された自動車や部品などの不正輸出が散見されている。昨今では組織による犯罪と思われる大胆な犯罪事例が多く見られる。そこで、海外での中古車や中古部品の需要などについてヒヤリングを行い、海外市場の実態などについて確認させていただき、関連情報を得たいと考えた。

ここは2018年に訪問したことがあり、当時からの状況変化や新しい情報があることを期待する。

【訪問先】 日本中古車輸出業協同組合 会議室 専務理事 塩田 様

【日時】：2023年 6月 29日（木） 10：00～12：20

【訪問メンバー】 公益社団法人 日本防犯設備協会 自動車・オートバイ委員会
大坪委員長、植田、古新居、進藤、長嶋、山本、佐藤事務局

【確認項目】

(1) 中古車両の輸出国、各国の輸入規制、販売動向と状況

- ・中古車の輸入を禁止している国でも、アメリカ、オーストラリアは製造25年経過後輸入可、カナダは15年後輸入可、インドは必要性の証明があればOKとなっている。
- ・輸出量の増加している国は、ロシア、ドバイ、ケニア、モーリシャス、マレーシア、ニュージーランド（国内にカーメーカーが無いので）となっており、減少している国はスリランカ。
- ・輸入の規制をしていない国では、いずれも車種などの規制はない。
- ・ロシアでは平均で約150万円程度で取引きされている。600万円以上の車は輸出不可となっている。
- ・日本で盗難の多い車種（レクサス、ランドクルーザー、プリウス等）と、海外で需要のある車種の一一致は不明。
- ・貨物車両の需要が多い。オートバイは不明。部品の需要は国による。

(2) 中古車輸出業協同組合様における取り組みと、その他の情報

- ・組合の加盟企業は約200社で60%が東京の企業である。
- ・日本車を輸出できる国は約200か国で、その殆どの国とお付き合いがある。
- ・盗難車両数は、過去6.7万台/年あったが現在は1万台/年程度に減っている。
- ・非常に少ないが、ベンツやポルシェで盗難車が入って来た案件がある。
- ・ベンツでは、配線コード等の各部品に車体番号（VIN）が刻印されている。
- ・過去不正取引した業者を、1社除名処分したことがある。

(3) 中古車両、及び中古部品の販売

- ・輸出した車両や部品の保証については、コストメリットがないのでクレームは受付けていないことが多い。
- ・車両や部品の保証やメンテナンスをする場合もあるが、基本は業者任せである。

【まとめ】

塩田専務理事より、組合設立後の中古車輸出に関する様々なお話を頂いた。

日本での盗難件数は減少の一途を辿っているが、相変わらず品質の良い日本車は海外で需要があり、その市場は世界規模である。

引き続き、当自動車オートバイ委員会では今回のように関係団体等を訪問するなどして情報の収集をしていきたいと考えている。

5 千葉県警察本部様訪問ヒヤリング

【千葉県警察本部訪問】

昨年度の委員会活動で行った愛知県警察本部でのヒアリングに引き続き、本年度は千葉県警察本部でのヒアリングを行うこととした。

千葉県では、2023年に入り10月までの自動車盗難認知件数が全国ワースト1位であり、千葉県警察本部のホームページからは、啓蒙活動を盛んに実施し盗難防止に力を入れていることがうかがえることから、盗難実態の確認・調査を目的に訪問する事とした。

【訪問先】

千葉県警察本部

生活安全部 生活安全総務課 理事官 兼 犯罪抑止推進室長 兼 警務部監察官

警視 高橋 功樹 様

生活安全部 生活安全総務課

警部 市川 慶 様

生活安全部 生活安全総務課

警部補 熊谷 賢吾 様

【日時】

2023年11月28日（火） 13：00～15：00

【訪問メンバー】公益社団法人 日本防犯設備協会 自動車・オートバイ委員会

大坪委員長、安倍、植田、河地、倉田、佐野、長嶋、山本、佐藤事務局

【千葉県警様ヒヤリング】

事前に質問事項を送付させていただき、その資料内容と共に千葉県警様より、県内自動車盗の発生状況、オートバイ盗の発生状況、車上ねらいの発生状況、部品ねらいの発生状況、自転車盗の発生状況について説明をいただいた。

盗難認知件数が多い理由として、ヤードが多い事、他県に隣接して交通の便が良い事、港が多い事と推定しているとの説明があった。

千葉県としては、盗難件数が増加傾向にある為、キャンペーン等で啓蒙活動のほか、デジタルサイネージを活用した広報活動や巡回連絡等の各種警察活動における注意喚起の実施、協力団体と連携して盗難対策に取り組んでいる説明があった。

【まとめ】

千葉県警察本部としても自動車盗ワースト1位であり、対応を強化していきたい想いがあるものの、対応人員減・高齢化による人手不足もあり、苦慮している状況であった。

今回の訪問をきっかけに日防設や防犯機器関係団体等との連携強化を行い啓蒙活動を推進していきたいという考え方もある為、日防設としても今後も千葉県警と連携を取りながら自動車盗抑止へ向けた活動を継続し推進していく必要があると考える。

千葉県警として盗難件数減少への強い熱意と取り組みが感じられ、今後、その効果が期待される。

6 通信機能駐車中盗難監視ドライブレコーダ調査

機能・性能比較表

2024.1.30

	バイオニア NP-1	コムテック ZDR-058	コムテック ZDR-059
本体サイズ	118mm (w) X 36mm (H) X 93mm (D)	100.4mm (w) X 62.7mm (H) X 29.8mm (D)	100.8mm (w) X 103.9mm (H) X 45.5mm (D)
本体重量	300 g	164 g	194 g
前方カメラ			
有効画素数/解像度	約200万画素/1920 x 1080P (フルHD画質)	約200万画素/1920 x 1080P (フルHD画質) /HD (1280x720P)	約460万画素/2160/2160 (フルHD画質)
記録画角	水平130° /垂直68° /対角159°	水平138° /垂直70° /対角168°	水平360° /垂直240°
レンズF値	F2.0	F1.8	F2.0
フレームレート	27.0fps(LED信号機が消灯状態で記録されないように調整)	17.5fps/27.0fps(LED信号機が消灯状態で記録されないように調整)	27.5fps/17.5fps
ナイトサイト (高感度撮影)	STARVIS™技術搭載 ソニー製CMOSセンサー採用	1/2.8型 CMOSセンサー STARVIS™技術搭載	1/2.8型 CMOSセンサー STARVIS™技術搭載
車内/後方カメラ			
有効画素数/解像度	約200万画素/1920 x 1080P (フルHD画質)	約200万画素/1920 x 1080P (フルHD画質) /HD (1280x720P)	約200万画素/1920 x 1080P (フルHD画質)
記録画角	水平124° /垂直65° /対角151°	水平138° /垂直70° /対角168°	水平138° /垂直70° /対角168°
レンズF値	F2.0	F1.8	F1.8
フレームレート	16.0fps(LED信号機が消灯状態で記録されないように調整)	17.5fps/27.0fps(LED信号機が消灯状態で記録されないように調整)	27.5fps/17.5fps
ナイトサイト (高感度撮影)	STARVIS™技術搭載 ソニー製CMOSセンサー採用	1/2.8型 CMOSセンサー STARVIS™技術搭載	1/2.8型 CMOSセンサー STARVIS™技術搭載
電源電圧	12v/24v用シガーライター電源ケーブル付属	DC12v	DC12v
最大消費電流	2.8A	700mA以下/スーパーイヤバシタ充電時：1000mA以下	720mA以下/スーパーイヤバシタ充電時：910mA以下
同梱microSDカード	32GB	32GB	32GB
対応記録媒体	microSDHC/microSDXCカードclass10 (8GB~512GB)	microSDカード (付属：32GB/class10)8GB~128GB対応 class10推奨)	microSDカード (付属：32GB/class10)8GB~128GB対応 class10推奨)
記録方法	連続録画/イベント録画/手動イベント録画/駐車監視録画 *sdカード保存に加えクラウドにも自動保存	常時録画/イベント録画 (衝撃録画/マニュアル録画【手動録画】/後続車接近録画)	常時録画/イベント録画 (衝撃録画/マニュアル録画【手動録画】/後続車接近録画)
駐車監視機能	オプション (駐車監視用電源ケーブルNP-BD001が必要)	有り 最大24時間録画可能、駐車場での当て逃げなども記録してクラウドに自動保存	有り 最大24時間録画可能、駐車場での当て逃げなども記録してクラウドに自動保存
GPS部	方式：GPS/assisted-GPS/GLONASS/GALILEO/みちびき	有り	有り
モーションセンサー	6軸モーションセンサー	Gセンサー (ON/OFF調整可能) : 0.1Gから1.0Gまで0.1G単位で設定可	Gセンサー (ON/OFF調整可能) : 0.1Gから1.0Gまで0.1G単位で設定可
LTE部	対応バンド：Band1,Band3, Band19通信速度：受信最大150Mbps (ベストエフォート方式) 送信最大50Mbps (ベストエフォート方式)	4G LTE	4G LTE
SIM部	nanoSIM (docomo in Car Connect対応)	-	-
Wi-Fi部	Hotspot : IEEE802.11b/g/n (2.4GHz) /Station/P2P,最大同時接続台数5	-	-
bluetooth部	Bluetoothバージョン：Bluetooth5.1	-	-
偏光フィルター	対応	HRDで白とびなし	HRDで白とびなし
マイクシステム	ピームフォーミング技術Voice DSP採用	専用アプリで通話機能搭載	専用アプリで通話機能搭載
スピーカーシステム	ブースト内臓D級アンプ採用小型スピーカー	-	-
その他機能			
安心機能	-	緊急録画停止機能：事故などの大きな衝撃を受けた際に上書きしないように自動で録画を停止します。 (ON/OFF調整可) バックアップ機能：事故などで電源が切断しても、内臓のスーパーイヤバシタによりファイルの破損を抑え、記録した映像を保護します。	緊急録画停止機能：事故などの大きな衝撃を受けた際に上書きしないように自動で録画を停止します。 (ON/OFF調整可) バックアップ機能：事故などで電源が切断しても、内臓のスーパーイヤバシタによりファイルの破損を抑え、記録した映像を保護します。 後続車接近お知らせ機能：後続車の接近を検出しお知らせする。
安全運転支援機能	-	後続車接近お知らせ機能、先行車発進お知らせ機能、先行車接近お知らせ機能、先行車接近継続お知らせ機能	ドライブサポート機能、車速アラーム機能
みまもり通知機能搭載	-	画像または映像をクラウドへ自動保存 衝撃やスイッチを押すなどのイベントを検出した際に、画像または映像をクラウドサーバーへ自動で保存します。また、スマートフォン専用アプリからリクエストで、現在の画像または映像を保存する事も可能。	画像または映像をクラウドへ自動保存 衝撃やスイッチを押すなどのイベントを検出した際に、画像または映像をクラウドサーバーへ自動で保存します。また、スマートフォン専用アプリからリクエストで、現在の画像または映像を保存する事も可能。

7 その他の活動

今年度その他の活動について下記に示す。

(1) 「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム」

官民合同PT事務担当者会議（書面会議）

[意見照会期間] 令和5年5月15日（月）～5月22日（月）17時

[議題] 車名別盗難台数等の公表の拡充について

[趣旨] 自動車盗難等の防止に資するため、警察庁ウェブサイトにおいて「自動車盗難等の発生状況等について」を掲載し、盗難台数が多い5車種を公表しているところ、昨今の自動車盗難の発生状況を踏まえ、国民の自主防犯活動等の更なる促進を図るため、車名別盗難台数の公表数を10車種に拡充するもの。

(2) 「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム」

自動車盗難に関する官民合同PT（書面開催）

[書面締切り日] 令和5年12月4日（月）までに回答

[依頼内容] 取組状況、情報交換WG、盗難自動車の流通阻止WGの更新

(3) 「第21回大阪府自動車盗難等防止対策協議会総会」

[開催日] 令和6年2月29日（木）

[場所] ホテルプリムローズ大阪 2階「鳳凰」（西）の間

[出席者] 大坪委員長

① 議事審議

第一号議案 役員の改選

第二号議案 会則の改正

第三号議案 令和5年度事業結果

第四号議案 令和6年度事業計画

② 自動車関連犯罪の現状と取組状況

大阪府警察本部生活安全部府民安全対策課

③ 講演

テーマ：「最新の自動車盗難手口と対策」

加藤電機株式会社 代表取締役社長 加藤 学 様

おわりに

本自動車・オートバイ委員会の運営あたり、協会各位、当委員会の委員および活動中にご協力を頂戴した皆様に深く感謝します。

精力的に自動車盗難対策に取り組んできた成果により自動車盗難認知件数は、2003年64,223件のピーク時から大幅に減少しており、2023年は5,762件とピーク時から1割以下にまで減少していますが、2023年は2022年と比較し微増となる+28台となることが統計上わかっています。

自動車、オートバイのセキュリティ機能を向上することで大きな成果が出ましたが、犯行手口は、ニュースや動画配信サービスで「リレーアタック」や「CANインベーダー」の報道があるように、計画的かつ巧妙化しております。今後も犯行手口は日々巧妙化していくと予想されるので各委員から持ちよる情報や委員会で調査した情報などを共有し、少しでも防犯に役立てるようにしていくことが重要だと思います。

また、高度な技術を駆使した重要窃盜犯である自動車盗がある一方、単純に窓ガラスを割って車内に放置してあるわずかな金銭を奪う車上荒らしもあり、地域により、手口や狙われる車種が異なっているようです。

現状の様々な盗難手口に対しどのような防盗手段が有効か、また最新手口の調査や、組織犯罪であれば取り巻く環境や背景などの調査についても当委員会の研究テーマであると考えています。

今後も盗難を減らすために従来からの活動に加え、新たな視点や違う角度からの調査や研究もおこない、活動を続けてまいります。

2024(R6)年3月

公益社団法人 日本防犯設備協会
自動車・オートバイ委員会
副委員長 佐野 博之

参考資料：日本損害保険協会「第25回 自動車盗難事故実態調査結果」

NO.23-33

第25回 自動車盗難事故実態調査結果発表

一般社団法人 日本損害保険協会（会長：新納 啓介）では、今般「第25回自動車盗難事故実態調査結果」を発表します。

本調査は、2000年から毎年、自動車盗難防止対策の一環として、自動車本体盗難事故や車上ねらい事故の実態調査を実施し、今回が第25回目となります。

当協会では、今後も警察庁などと連携し、自動車盗難防止関連の取り組みを推進していきます。

車両本体盗難の車名別盗難状況

車両本体盗難の車名別盗難状況

- ・2023年車両本体盗難の車名別盗難状況のワースト1は、3年連続でランドクルーザーとなりました。
- ・アルファードが車両本体盗難全体に占める割合は、2022年の6.9%から2023年の14.0%と増加傾向にあります。
- ・車両本体盗難の被害は特定の車種に集中する傾向が続いている。

車名別盗難状況－車両本体盗難

※構成比の各項目は小数点第2位を四捨五入しているため、表記の単純合計値が100%にならない場合があります。

車両本体盗難

2021年				2022年				2023年			
順位	車名（車種）	件数	構成比	順位	車名（車種）	件数	構成比	順位	車名（車種）	件数	構成比
1	ランドクルーザー	331	13.6%	1	ランドクルーザー	450	16.9%	1	ランドクルーザー	383	14.7%
2	プリウス	266	11.0%	2	プリウス	282	10.6%	2	アルファード	364	14.0%
3	レクサスLX	156	6.4%	3	アルファード	184	6.9%	3	プリウス	307	11.8%
4	アルファード	138	5.7%	4	レクサスLX	156	5.9%	4	レクサスLX	120	4.6%
5	クラウン	81	3.3%	5	レクサスRX	90	3.4%	5	ハイエース	60	2.3%
6	ハイエース	78	3.2%	6	ハイエース	83	3.1%	6	クラウン	53	2.0%
7	レクサスRX	58	2.4%	7	クラウン	72	2.7%	7	ヴェルファイア	43	1.7%
8	ヴェルファイア	41	1.7%	8	アクア	55	2.1%	8	レクサスRX	42	1.6%
9	レクサスLS	36	1.5%	9	C-HR	43	1.6%	9	ハリアー	37	1.4%
	ハリアー	36	1.5%	10	レクサスES	38	1.4%		メルセデスベンツ	37	1.4%
上位10車種合計		1,221	50.4%	上位10車種合計		1,453	54.7%	上位10車種合計		1,446	55.7%
その他車種		1,204	49.6%	その他車種		1,203	45.3%	その他車種		1,151	44.3%
合 計		2,425	100.0%	合 計		2,656	100.0%	合 計		2,597	100.0%

(注) ランドクルーザーには、プロトを含む。

以上